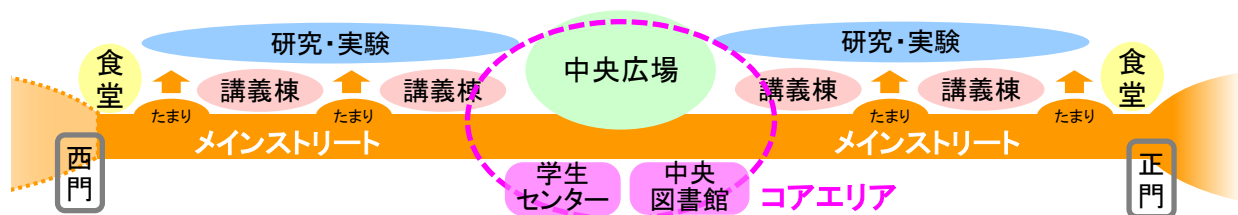


広場を中心としたキャンパスコアエリアの充実



常盤台キャンパスの中央に位置する附属図書館、学生センター、中央広場等で構成される一体的空間をキャンパスコアエリアと位置づけ、学生・教職員その他学内外の様々な人々の交流エリアと位置づけている。

今回、コアエリアの更なる充実のため、中央広場と、隣接する講義棟の再整備を行った。



経済学部講義棟2号館
アクティブラーニングスペース



キャンパスコアエリアの
中心となる広場



経済学部講義棟2号館
講義室と広場の視覚的連携



大学祭イベント会場として使用の様子

基本情報

- 工期：平成27年10月～平成28年5月
- 面積：経済学部講義棟2号館 1,698㎡
中央広場 9,100㎡
- 施工者：(建築) 株式会社イズミ・コンストラクション
(電気) 株式会社協立電気商会
(機械) 株式会社勝栄工業

施設整備の目的と課題

キャンパスの中央に位置する広場の再整備により、隣接する施設と共に学修活動・学生支援・学术交流のコアエリアを形成し、大学全体の教育研究の活性化を図ることを目的とする。多様な利用者が様々な活動に利用出来る広場として再整備する。

中央広場は円形の広場であり、大学等の行事や日常の憩いの広場として使用されているが、周囲に対してオープンで使いやすい広場であるとは言い難い。樹木に囲まれメインストリートから広場の様子が見えないなど周囲から視覚的に分断しており、見通しの悪さに不安がある。緩い斜面には通過動線に適した通路が無く、メインストリートの賑わいが入ってこない。最も近接する経済学部講義棟2号館は、広場との連携は無くむしろ周囲と広場の隔壁となっている。

また、中央広場は避難場所であるが、緊急車両の進入が困難であり、すり鉢状広場中央の排水機能に支障があるなどの課題がある。



段と芝生の緩い斜面



中央広場灌水

課題解決に向けた計画

- ・中央広場の開放性を高めるため、樹木帯の整理を行いメインストリートからの見通しの確保を行う。広場内に通りやすい歩道を設置、また経済学部講義棟2号館との間の通路を整備することで、通過動線を確保し周囲の賑わいを引き込む。多様に活用出来る居心地のよい場所となるよう芝生面を基本とした構成に整備する。
- ・講義棟大教室の広場側外壁に開口を新設し、広場との間の閉塞感を緩和する。また講義棟内からは中央広場との視覚的一体感を創出し、さらにキャンパスのシンボルともなり得る広場を見せることで大学全体への意識の広がりを演出する。
- ・閉鎖的であった講義棟のロビーの南北面外壁を全面開口とし、開放的なアクティブラーニングスペースとして活用する。講演会等多様な利用にフレキシブルに対応出来るスペースとし、さらに中央広場との一体的利用に展開できるように中央広場へのルートを確保する。
- ・緊急車両進入道路整備、雨水排水設備改修により、災害時の防災拠点としての機能を確保する。さらにマンホールトイレ等防災設備の設置による機能強化を行う。

整備を実施することで想定される成果や効果

- ・開放性の高い安心で居心地のよい空間となることにより広場利用率が向上し、キャンパスコアエリアの活性化につながる。
- ・アクティブラーニングスペースを生かした活用により、講義棟の利用率が向上する。
- ・中央広場と講義棟の一体的活用によりキャンパスの特色を生かした教育研究活動の活性化が期待される。

施設整備の状況

Before



中央広場

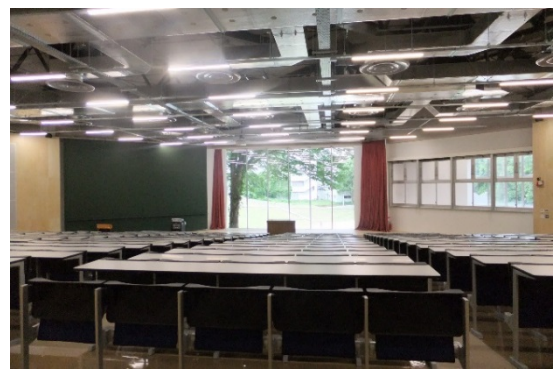
After



中央広場



講義棟大教室



講義棟大教室

